



【発行】**重国たけし**
日本共産党狛江市議予定候補、
党狛江市環境・まちづくり推進室長
【連絡先】 ☎ 090-1775-9052
mail : sigeny@nifty.com

バス問題特集 (その2) 暮らしの足を守れ!

小田急・京王バス要請結果報告 (ハイタウン一ツツジヶ丘駅、喜多見駅)

前回、京王バス廃線問題の特集した「まちづくりニュースNo.4」には、多くの反響をいただき、ありがとうございました。

その後、私・重国たけしは、共産党市議団とともに、狛江市北部地域(狛江ハイタウン周辺、東野川3・4丁目など)のバスの改善(回復)のために、小田急バス本社(調布市、3月6日、岡村しん・鈴木悦夫市議、荒木てつ市議予定候補が参加)および京王バス本社(府中市、3月9日、宮坂良子市議、ハイタウン住民、共産党田村智子参院議員秘書が同席)を訪ね、要請を行いました。その内容と結果についてお知らせします。

●小田急バスへの要請

共産党狛江市議団は、小田急バス会社に対し、2020年11月の



小田急バスに要請・懇談(3月6日)

「ハイタウン一喜多見駅」の減便以降、繰り返し増便を要望してきました。今回、2月末で京王バス「ハイタウン一ツツジヶ丘駅」路線が廃止され、住民の移動がいつそう困難になったことを踏まえ、改めて増便と他ルートでの運行などについて要請しました。

小田急バスからは、バス事業本部計画部が対応。いずれの要望内容についても「検討します」とのお返事でした。また、いくつか実情を聞くことができました。

【要望1】「ハイタウン一喜多見駅」のバス便では「9時3分〜12時15分」および「14時15分〜16時35分」に大きな空白が生まれています。増便やダイヤ改正により空白時間を解消できないでしょうか。乗客数の増加が見込めれば増便は可能でしょうか。行政などから公共交通維持への支援があれば増便は可能なのでしょうか。

【要望2】「明照院前」を通過する成城学園前駅、つつじヶ丘駅、狛江駅、調布駅行きなど他のバス便の一部をハイタウン経由にルート変更できないでしょうか。

【回答1】利便性を高めるためのダイヤ改正等については検討したいと考えています。ただ、小型バスは保有台数が限られるため、+

【回答2】乗務員確保や、既存バスダイヤとの関係などさまざまにハードルが高いのですが、ご要望については検討します。

【要望3】利用者の利便性向上の視点から、狛江市からの委託を受けて運行している「こまバス」の運行ルートやダイヤの改正をお願いします。

【回答3】狛江市からの要望にもとづいて対応します。

(裏面につづく)

力を合わせ暮らしの足を守りましょう

●京王バスへの要請

「つつじヶ丘駅ーハイタウン」路線が2月末で廃止されたことを踏まえ、共産党田村智子参院議員事務所の協力を得て、要請・懇談を行いました。京王バス株式会社からは運輸営業部乗合事業担当のスタッフが対応してくださいました。

最初に、今回、暮らしに密着したバス路線が、何ら代替措置のないままに突如廃止されたことにより、利用者・付近の居住者に大変大きな混乱が生じたこと。このようなやりかたは、地域の公共交通を担うバス会社の対応として疑問を感じざるを得ないことを率直にお伝えしました。これに対して、「お知らせが直前になり、大変なご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした」と謝罪がありました。

また、私が緊急調査した利用者の声を紹介（資料提出）、ハイタウン住民の金



京王バスに要請・懇談(3月9日)

子守一さん(92歳)から、睡眠時無呼吸症の治療のためにこのバスを利用しており、600メートル近くある明照院バス停まで歩いていくことは大変困難であることなども話されました。そして京王バスに対し、住民の暮らしを支える立場での対応を求めました。以下、要請内容及び回答の概略についてお知らせします。

【要望1】「つつじヶ丘駅ーハイタウン」路線が突如廃止された件について、住民に対する説明会を狛江市とともに開催し、「足」の確保についての住民の要望を聞く機会を設けてください。

【回答1】狛江市が地域住民のみなさんの要望を聞く機会を設けていただければ、そこに参加し説明することはできると考えています。

【要望2】路線の復活および代替手段を検討してください。例えば、①ハイタウンを経由する「つつじヶ丘駅ー調布駅」路線を大幅に増便する。②他路線の「明照院前」通過便について「ハイタウン」経由便を設けるなど。赤字路線、人員不足、労働条件改善が理由と聞いています。公的な支援を含めて収支の改善が見込めれば、路線復活や代替措置はできるのでしょうか。

【回答2】バス便を復活させたり、ハイタウン折返場経由のバス便を増やしたりすることについては、路線廃止決定にあ

たり、減便での路線維持を含めてギリギリまで様々に検討しましたが、その結果として今回のようなかたちとなりました。地域の公共交通を担うバス会社としては、できるだけ路線を維持したいと考えています。コロナ前と比べて8割程度の乗客しか今後も見込めないというもつで、赤字路線の見直しに踏み切らざるを得ませんでした。もちろん、公的な支援などがあればありがたいことですし、収支の改善が見込めればご要望に対応できる範囲が広がると考えられます。経便を増やすなどの対応は人員の確保など他の問題もあり、現時点では難しいと言わざるを得ません。

【要望3】住民の「足」を確保するための狛江市からの要請に真摯に対応してください。

【回答3】はい。真摯に対応させていただきます。狛江市さんが説明会や懇談会などを設けていただければ出席を検討させていただきます。

これらを受けて、狛江市へのあらためての要請を含め、引き続きみなさんと力を合わせ、暮らしの足の確保に全力で取り組みます。ご意見やご要望などお寄せください。

